

氏 名	藤原 浩子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 199 号
学位授与年月日	平成28年3月10日
学位論文題目	糖尿病を合併する統合失調症患者の病との折り合い のつけ方 - 病みの軌跡モデルを用いて -

(備考) ※印の欄には記入しないこと。

別紙様式3

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	204	(ふりがな) 氏 名	ふじわら ひろこ 藤原 浩子
修士論文題目	糖尿病を合併する統合失調症患者の病との折り合いのつけ方 —病みの軌跡モデルを用いて—		
目的：	<p>統合失調症と糖尿病を併せ持つ患者が、統合失調症発症後のライフイベントである糖尿病の発症をどのようにとらえ、それを受け入れて両方の病との折り合いをつけるのかということを明らかにすることである。</p>		
方法：	<p>精神科デイケア通所中または訪問看護を受けながら地域での生活を送っている糖尿病を合併する9名の統合失調症患者に対して、インタビューによる半構成的面接を実施した。また、研究対象者の一般属性の把握のために調査票を作成し、研究対象者に記入を依頼した。得られたデータの信頼性を確保するために、診療録や看護記録を研究協力施設の代表者や研究対象者の許可を得て閲覧した。面接内容で得られたデータに関しては、質的記述的に分析した。</p>		
結果：	<p>データ分析の結果、10のカテゴリー、62のサブカテゴリー、231のコードが抽出された。糖尿病を合併する統合失調症患者の病との折り合いのつけ方として抽出されたカテゴリーは、【二つの病に翻弄された人生を生きる】【幻聴への対処法を模索し統合失調症と対峙】【糖尿病を楽観視しつつも自分なりの食事・運動療法を実践】【異性や家族との思い出を追想】【過酷な体験を乗り越え家族と程よい距離を維持】【過去を見直し生活を再構築】【就労に対する熱意】【二つの病と闘いながら積極的な社会参加で人生を前向きに志向】【二つの病を抱えながらも周囲の支援で平穏な毎日を謳歌】【死の淵からの生還】であった。</p>		
考察：	<p>本研究対象者らは、二つの病に翻弄された人生を生きつつ、統合失調症の対処法を模索しながら、その過程を生きがいと呼ばれるものにまで昇華していった部分がある。糖尿病に対しては糖尿病を単独で患っている人たちよりは楽観的な受け止めをし、そのことが糖尿病の自己管理に功を奏している。様々な家庭内の葛藤をくぐり抜けて、家族とともに成長し、家族と程よい関係を維持できるようになった。就労に関しては希望を持ち続けているが、自己を客観視することで自らの限界も自覚し、無理な就職を望まなくなった。闘病を重ねたうえで服薬の重要性を実感できたことが、治療への信頼と良好なコンプライアンスに結び付いている。安定した社会的支援を受けることで、ストレスや困難のない生活を送ることができている。現状を受け入れいたずらに夢を追わないことで、心の平静を保ち平穏な日々を送ることができている。二つの病の治療を拒絶し、底つき体験をした人も、問題に直面化し軌跡の予想を変えることで、這い上がることができた。</p>		
総括：	<p>幻覚妄想に翻弄され、抗精神病薬服用の副作用による苦痛と服薬中断による症状再燃に翻弄され、さらに糖尿病の発症に伴う糖尿病の管理にも翻弄されて生きることを余儀なくされたが、「軌跡の管理」に取り組み、社会資源や人的資源、経済面を整えることで、過去の自分や今の自分に折り合いをつけ、現在の自分を受容し、闘病と自らの生活に折り合いをつけて、未来志向を持ち生きることにとどり着いた。このような対象者に対し、ありのままを受け止め、支持していくかわかりが必要である。</p>		

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)